厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

分担研究報告書

メディア情報が女性の健康に及ぼす影響に関する研究

分担研究者　村松泰子（東京学芸大学教育学部）

研究要旨：

マスメディアが女性の健康、リプロダクティブ・ヘルスに及ぼす影響を探るため、思春期女子と中高年女性の２つの年代に焦点をあて、「大人向け雑誌における『女子高生』の性的商品化と思春期女子の性行動の変化に関する研究」と「中高年女性におけるテレビ・雑誌からの健康情報獲得行動に関する研究」を行った。

前者からは、90 年代に大人向け雑誌が「女子高生」を性的な商品であるかのように、また彼女たちが能動的にそうなっているかのような報道を過剰に行ってきており、それに並行して、実際に、制服を着た少女たちが街頭で年長の見知らぬ男性に誘われる経験を、日常的にしていることが明らかになった。

後者は、中高年女性がテレビ・雑誌などのマスメディアを通じて、かなり積極的に健康情報を入手していること、必要に応じて選択的に接しているが、その有用性については年層などにより肯定的な層と懐疑的な層があることなどが明らかになった。

研究協力者

佐藤（佐久間）りか
プリンストン大学大学院社会学科
石垣和子
浜松医科大学医学部看護学科

A．研究目的

情報の氾濫する今日、とくに不特定多数に向け発信されているマスメディア情報が、女性の健康、リプロダクティブ・ヘルスに及ぼす影響を探ることを目的に、２つの年代の女性に焦点を絞った下記のリサーチクエスチョンについて調査研究を行った。

１）大人向け雑誌における「女子高生」の性的商品化と思春期女子の性行動の変化に関する研究

２）中高年女性におけるテレビ・雑誌からの健康情報獲得行動に関する研究

思春期女子については、近年活発化している性行動とメディアの関係を、とくにそこに介在する年長男性の行動や、大人向けメディアでの「女子高生」の扱い方の検証により探ることを目的とした。また中高年女性は、本人の健康への関心に加え、家族の健康管理役を自負し、また期待もされていると思われる。そこで、彼女たちが、どのような健康情報を得ており、それに影響を受けているかを探るための基礎作業として、どのようなマスメディアからの健康情報にどのような態度で接しているかを明らかにすることとした。

B．研究方法

リサーチクエスチョン１

①「制服少女」街頭質問紙調査

首都圏の２カ所の街頭で、制服姿の中高生の女子 121 人を対象に実施。

調査内容は、制服のイメージ、街頭での年長男性からの接触経験、女子高生ブームについてなど。

②大人向け雑誌における「女子高生」関連

記事分析

大宅壮一文庫の雑誌記事検索サービスを用い、90～96年の雑誌記事より、主題が「女子高生」「少女売春」「10代の性」と分類される記事を計66誌668件収集。

分析内容は、見出しやリード文中に「制服」「テレクラ」「ブルセラ」「コギャル」「援助交際」など計７語の出現する記事の件数と内容の特徴、筆者とその性別、特集や写真の使い方などの、年次別傾向。

リサーチクエスチョン２

中高年女性の健康情報獲得行動についての実態調査

浜松市内２地域で無作為抽出した 40～69歳の中高年女性400人を対象に、郵送による質問紙調査を実施。有効回答 186人。

調査内容は、健康への関心、健康情報を得るために接している雑誌･テレビ番組、メディア情報の有用性の評価、メディア情報の利用のしかたなど。

C．研究結果

リサーチクエスチョン１では、調査対象となった首都圏の女子中高生たちは、実に約75%が 25 歳以上の見知らぬ男性に街で声をかけられた経験をもっており、約半数が自分の父親と同じかそれ以上の年齢の男性に誘われていた。声をかけられた少女の約６割が金品の供与を示された。雑誌分析からは、ブルセラ・ショップが話題を呼んだ1993年以降、思春期の少女を性的商品として扱う記事が急増し、とくに96年には「女子高生」を「援助交際」に結びつける傾向が顕著になっていることなどが明らかになった。

リサーチクエスチョン２では、中高年女性の健康情報源としては、雑誌では「ＮＨＫきょうの健康」、テレビでは「おもいっきりテレビ」「ＮＨＫきょうの健康」が高率であった。健康に気を使っている人のほうが、「ＮＨＫきょうの健康」を見たり読んだりしており、「おもいっきりテレビ」の視聴者は、60代の90%がテレビ番組は役立つと答え、40代では40%近くが役に立たないと答えた。

D．考察

思春期の少女たちは、繁華街に限らず郊外の都市でも、制服を着て街を歩いているだけで、見知らぬ年長男性の性的欲求の対象とされ、値踏みさえされている実態が明らかになった。他方、大人向け雑誌の90年以降の記事の傾向として、92年までは女子高生が「性的商品」となる萌芽は見られるものの、その積極性は強調されていなかったが、93・94年のブルセラブームを境に「女子高生」関連記事が急増するとともに、内容も性的になる。さらに96年には「援助交際」の語が爆発的に広がり、記事の関心が「制服」から中身の少女自身に移っていった。このように見ると、メディア情報と思春期女子の性意識や行動との関係は、直接的な影響というよりも、男性が性的な商品として少女に接することの心理的バリアを、メディアが低くするという構図であるようだ。

また、最近のマスメディアのさまざまな形の健康情報が、女性に及ぼす影響を探るための第一段階として行った、中高年女性の健康情報獲得行動の実態調査からは、彼女たちが雑誌やテレビから健康情報をかなり得ていることが明らかになった。影響を明らかにするには、今後、それらの情報の内容・質とともに、彼女たちがそれらにどのような条件で、どのように判断しながら接しているかという要素をあわせて見ていくことが必要である。

E．結論

情報の氾濫する今日、マスメディア情報は、思春期あるいは成人の女性の健康、リプロダクティブ・ヘルスに関し、直接的な影響とともに、女性に対する男性の視線への影響などを通じて、深くかかわっていることがわかった。今後、さらに具体的に解明していくべき重要な課題であり、メディア情報の内容と質、情報と影響の流れの回路、そして女性自身のメディア情報の利用のしかたや読み解きかた、さらにはおそらくは女性の側からの発信のしかたまでを視野に入れ、総合的に考察していくことが必要である。